

「京町家リース」ははじめました

このたび、まちセンでは、京町家を所有者から一定期間借り受け、活用者への転貸により新たな使い手につなぐ、公的サブリース事業「京町家リース」を開始しました。

「京町家リース」は、京都の美しい景観や、奥深い生活文化の象徴である京町家を継承するため、所有者の想いと建物の価値をいかし、ふさわしい使い手（活用者）へ橋渡しをする事業です。

活用を希望される京町家がありましたら、まずはお気軽にご相談ください。



4月から事務局の組織体制が新しくなりました。

4課体制となったまちセンを、今後ともよろしくお願いいたします。

事務局

経営企画課

庶務、労務、経理、指定管理事業統括、視察対応、賛助会員、寄附促進、リブランディング、広報など

先端研究・イノベーション推進課

京町家の継承・流通推進(京町家リース含む)、歴史的建造物活用・管理、京町家データベース、京町家調査・研究など

京町家保全・継承推進課

京町家なんでも相談、京町家相談員制度、京町家再生セミナー、京町家まちづくりファンド運営、京町家等継承ネットなど

景観づくり・地域支援課

まちづくり相談・活動支援、京のまちづくり史講座、京町家カルテ・京町家プロフィール・京建物カルテ、路地整備計画、建造物調査資料作成など

ニュースレター

京まち工房116

公益財団法人 京都市景観まちづくりセンター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅津町83番地の1 (河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp HP: https://kyoto-machisen.jp



京都市景観・まちづくりセンター

令和8年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

賛助団体の皆様



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房

ニュースレター

vol.116

2026.September

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

祇園祭の山鉾行事とともに受け継がれてきた「屏風祭」。
山鉾町の京町家では、代々伝わる屏風をはじめ、
美術工芸品や調度品がしつらえられ、
町衆が育んできた文化と美意識を今に伝えています。
本号では、京都市に遺贈された旧吉田家で
開催した屏風祭の様子をご紹介します。





祇園祭後祭・屏風祭 旧吉田家(京都生活工芸館・無名舎)の公開

旧吉田家は、昨年、故吉田孝次郎氏から京都市に遺贈されました。その遺志を受け継ぎ、祇園祭の後祭に合わせて、今年も7月20日から23日まで屏風祭を一般公開しました。

旧吉田家は、明治42年(1909)に建てられ、白生地問屋として栄えた京町家です。国登録有形文化財(建造物)に登録され、京都市景観重要建造物にも指定されており、表屋造と呼ばれる商家の京町家の姿と町衆文化を今に伝える貴重な建物です。

屏風祭は、山鉾町の京町家で代々受け継がれてきた屏風や美術工芸品、調度品などを飾り公開する祇園祭ならではの伝統行事です。

今年の旧吉田家では、赤穂緞通や朝鮮毛緞、金屏風、檜扇などをしつらえ、祇園祭の時季ならではの京町家の姿をご覧いただきました。

期間中は、吉田氏を偲ぶ方々をはじめ、多くの方がお越しになり、京町家の空間とともに、そこに受け継がれてきた文化や美意識に触れていただく機会となりました。

※旧吉田家の管理・運営については、本年度、京都市から京都市景観・まちづくりセンターが受託しています。
屏風祭のしつらいには、特定非営利活動法人うつくしい京都、株式会社花市商店にご協力いただきました。



今回のイベントは(一社)女性技能者協会との共催でした。女性技能者協会は、建設業界で働く女性への理解を深め環境を整備し、女性技能者が安心して仕事を続けられるようにサポートすることを目的としてつくられた団体です。

にほんの伝統的な建築技術に触れて 和室づくりに親子で“挑戦”



8月1日、2日にまちセンで和室づくり体験を開催しました。1日目の午前中は大工さんと一緒に木組みからスタート。みんなで掛け声に合わせて木槌をふり、組み上げていきます。今回の木組みには、明治時代に建てられ解体された京町家の古材も使われました。午後は壁の下地“竹小舞”づくり。左官職人さんの指導の下、わら縄を使って編んでいきました。

そして2日目はいよいよ土壁塗り。コテの使い方を教えてもらって塗り始めると、みんな夢中で何度も土を取りに行っては壁を塗り、作業が終わったら道具を洗い片づけをして次の人にバトンタッチ。力を合わせてひとつのものをつくりあげる楽しさを体験できたのではないのでしょうか。また、今では目にすることが少なくなった土壁ができるまでの工程を実際に見られて、保護者の方々も貴重な体験ができたこと喜んでいらっしゃいました。

この体験を通して京町家に興味をもってくれる子どもが増えることを期待したいと思います。



『京町家カルテ』の活用事例

まちセンの『京町家カルテ』は、京都の伝統的都市住宅である京町家を、次世代に適切に継承していく手がかりとしていただくために作成・発行しています。建物の外観の特徴などをまとめた「基礎情報」、地域の歴史、建物の由緒・特徴をまとめた「文化情報」、建物の劣化などの状態をまとめた「建物情報」、および「間取図」で構成しています。

今回は『京町家カルテ』を作成された、京町家所有者 山本様にお話を伺いました。

京町家で暮らした思い出を教えてください

昔から京都の夏は暑かったですが、表玄関から入ってすぐの土間は真夏でも冷やとしていて汗がすっと引いたものです。表の明るい日差しと薄暗い土間の明暗が印象的でした。当時は周辺に高い建物もなかったので屋内にも風がよく通りました。

京町家には夏を少しでも快適に過ごすための工夫が随所にあったのだなとつくづく思います。

京都に対して思うことをお聞かせください

父の転勤に伴い12歳の時、神奈川県に引っ越ししました。大学進学時に京都へ戻るという選択肢もありましたが、当時の私は東京の生活に慣れていました。歳をとるにつれて、せっかく京都のど真ん中に実家があるのだから、京都で大学生活を送ってもよかったかなと思うようになりました。長女に京都の大学進学を勧めたのも、そういう心理があったからかもしれません。帰省の折、京都駅のホームに降り立った瞬間などは、毎度ワクワクして、なんとも言えない気分になります。その感覚をなかなか上手に伝えられませんが、京都は自分を精神的に落ち着かせてくれる場所です。神社仏閣の庭園や宝物に心が和み、東山や嵯峨野はもちろんのこと京都御苑や鴨川の自然にも四季折々の彩りを感じます。また、伝統に誇りを持ちながら常に新しいものを生み出そうとする熱量があると思います。狭い地域に歴史も自然もモダン文化も全てが凝縮されている魅力的なまちだと思います。

『京町家カルテ』作成依頼のきっかけと作成後のご感想を

お聞かせください

実家の京町家を守るためです。我が家のある通りは、つい最近まで京町家が残っているほうでした。しかし我が家の南隣が解体されたことが合図であつたかのように、わずか2年の間で通りの西側の町家が次々と取り壊され、現在は高層マンションの建設が4棟同時に行われています。京町家を手放した知人の話では残したくても相続税が払えずやむを得なかった、ということでした。いずれ我が家もそのような決断を迫られる時が来るかもしれません。しかし、何も手を打たずに手放すことにはなりたくないので、建物に付加価値をつければ存続できる選択肢(例えば銀行の融資や建物をいかした事業など)が少し増えるかも知れないという思いから『京町家カルテ』の作成を依頼しました。もちろん『京町家カルテ』を作成したからといって、京町家を守るための資金問題が即座に解決できるとは思っていません。ただ、『京町家カルテ』を作成していただいたおかげで、私自身が知らなかったことや、おぼろげにしか聞いてこなかった家の来歴と価値を知ることができ、自信と誇りを持てるようになりました。今後はその誇りを拠り所として、京町家を守っていくための方策をいろいろ考えていきたいと思います。

京都のご自宅(京町家)を残していくためのお考えをお聞かせください

通りの最後の一軒になるまで守っていきたく強く思っています。ただ、気持ちだけでは京町家を残すことはできません。一部、改装されたところではできるだけ昔ながらの姿に戻し、京町家として建物を活用してくれる事業主と一緒に、あるいは自分たち家族で事業を起こし、京町家の暮らしと文化を伝えていきたいと考えています。

取材後記

山本様には『京町家カルテ』作成のご依頼をきっかけに、京都市の京町家条例に基づく「個別指定京町家」への登録をご案内することができました。まちセンには『京町家カルテ』の事業のほか、京町家に関する様々なご相談をお受けする『なんでも相談』もあります。身近なところで、京町家に関する悩みごとを耳にされましたら、ぜひ、まちセンをご紹介ください。



家族と玄関前にて



長女の十三詣りの日 縁側にて



帰省して
正月を祝う